

番傘川柳本社

10月投句句会

締め切り…令和6年9月15日
 参加者……………102名
 投句整理……………柴岡桂子
 名簿作成……………中岡千代美
 清記……………西上遊二

宿題 うかつ 稲葉 岩明 選

うかつにもスマホ炎暑の車中泊 鈴木かつえ
 ホームランベースを踏まず泡と消え 大岩 郁夫
 大切なスマホ忘れて漂流者 菱木 誠
 うかつにもバジャマの上に着た背広 田中 堂太
 うかつにもまたブルトップ押し上げる 山岸 洋美
 休日と気がついたのは空電車 楠山東石子
 うかつにも段差一ミリ泣きをみる 田中きみ子
 カクテルの魔力にはまる午前二時 中武 弓
 ポケットのテッシュ暴れた洗濯機 高木みち子
 うかつにもバラに棘あるのを忘れ 鮎子田嘉子
 割り勘へ蟒蛇一人居たうかつ 藤井満洲夫
 前菜で満腹にするフルコース 中川 彰一
 うかつには手を下ろせない招き猫 常國 喜好
 弔辞に泣き思わず拍手してしまふ 伊牟田洋史
 捨て猫の目がわたくしを離さない みよしすみこ

うかつにも禁断の実を口にす 戸田 清孝
 子の涙おのれの迂闊思い知る 西谷 公造

うかつにも道ましがえて鬼に会う 廣田ひで子
 忘れるなどうかつよ義母の誕生日 黒田るみ子
 絶頂に立つて助言を聞きもらす 小林 祥司
 友見舞ううかつな事を言うでない 松岡登代子
 うかつにも酔いが回って出る本音 住田 照水
 自己嫌悪噂の種を蒔きました 池本 ゆき
 はてさてのうかつ笑ってお茶になる 山口由利子
 うかつにも貧乏神に戸を開けた 藏田 康子
 片付けてからアレが無いコレが無い 竹明なおみ
 おたがいのうかつを笑う老夫婦 中野 勲
 油断してマスク外したのはうかつ 佐藤 后子
 うかつにも踏んでしまった導火線 田中五十鈴
 毎日ひとつうかつが増えていく加齢 毛利 元子
 思春期の心の闇を見誤る 豊田 芳香
 うっかりが増えた夫婦の日々平和 西井 栄一

宿題 詩 八木 幸彦 選

ピッチャーは打てない人と決めていた 楠本 晃朗
 うかつな口の拡散力が恐ろしい 豊田 佳子
 ハンドルを持つ手に許されぬ迂闊 中村八十八
 慣れていた山で迷子になるなんて 浜野みさえ
 うかつなことは言えぬと悟るブーメラン 土居 直子
 お互いのうかつを笑い合うゆとり 常國 喜好
 気が付けば逆走してた免許証 村上 哲子
 知恵の樹が細る廃炉へ半世紀 やまぐち珠美

おてんばを詩人にさせる片思い 西谷 公造
 生きてゆくその日その日が一行詩 栗原つや子
 閉じ込めた思いを詩で解き放つ 鮎子田嘉子
 詩ごころ育てる母の読み聞かせ 福本 清美
 ほろ酔いの父のたわ言韻を踏む 西川 東岳
 七色のまぼろしが生む一行詩 森 繁生
 あちこちに失恋の詩古日記 中川 彰一
 故郷の诗情溢れる国訛り 佐藤 辰雄
 夕やけに詩人きどりのペンネーム 田中きみ子
 あの恋が詩集の中で生きている 豊田 芳香
 母さんが好きと嬉しい幼児の詩 瀬戸 波紋
 人肌の爛に演歌の詩が浮かぶ 北川 周興
 杉木立ボエムと出会う朝の道 青嶋由紀美
 独り言聞けばなんだか詩に思え 谷口 東風
 コスモスの詩集を畑からもらう みよしすみこ

詩心があって楽しい恋をする
臍の緒に命を愛でる母の詩
雨樋のリズムを聞いて詩作する
髪とかす風がボエムをくれました
詩心を忘れて今日も米を研ぐ
処女詩集まず柵棚にお供えし
人生の余白貪る一行詩
感動の詩が胸にあり生きられる
詩に託す晶子の世評ぶれぬ軸
詩心が騒ぐ箕面の秋の色
韻律も心に沁みるみずぶの詩
みつおの詩心のトゲを抜いてくれ
原爆の詩人に泣いた夏の雲
悲しみは詩にしそっと風に乗せ
断捨離で再会懐かしい詩集
落胆も夕焼け空が詩を作る
哀楽の日常溶かし一行詩
幼子が詩人のような言葉吐く
北向きの部屋で詠む詩も温かい
十指から詩がこぼれる道をゆく
詩のようにさえずる鳥のミーティング
自分史の行間にある一行詩
迫真の詩吟空気を震わせる
水平線の彼方に置いてきたボエム
仕事終え夜は詩人になる私

宿題 からかう

柴田 桂子 選

詩心があって楽しい恋をする
臍の緒に命を愛でる母の詩
雨樋のリズムを聞いて詩作する
髪とかす風がボエムをくれました
詩心を忘れて今日も米を研ぐ
処女詩集まず柵棚にお供えし
人生の余白貪る一行詩
感動の詩が胸にあり生きられる
詩に託す晶子の世評ぶれぬ軸
詩心が騒ぐ箕面の秋の色
韻律も心に沁みるみずぶの詩
みつおの詩心のトゲを抜いてくれ
原爆の詩人に泣いた夏の雲
悲しみは詩にしそっと風に乗せ
断捨離で再会懐かしい詩集
落胆も夕焼け空が詩を作る
哀楽の日常溶かし一行詩
幼子が詩人のような言葉吐く
北向きの部屋で詠む詩も温かい
十指から詩がこぼれる道をゆく
詩のようにさえずる鳥のミーティング
自分史の行間にある一行詩
迫真の詩吟空気を震わせる
水平線の彼方に置いてきたボエム
仕事終え夜は詩人になる私

橋本 恭治
高木みち子
諸富 幹夫
黒田るみ子
廣田ひで子
田中 堂太
阿部 俊八
山内 悦次
六戸三喜恵
中野 勲
山田 順啓
黒岩 博美
住田 照水
山岸 洋美
中村八十八
松下 英秋
桑野まりこ
蔵田 康子
細川 正章
主税みずほ
鈴木かつえ
茶谷 好太
鈴木さゑ子
楠山東石子
大岩 郁夫

正直な民をからかう永田町
困りますフェイク情報落とし穴
からかわれることには馴れた預金利子
論吉さんあなたは旅のお人よね
からかいが時に刃となる怖さ
からかいが何時か奇めになる怖さ
からかいが度を越えてゆく子のいじめ
何気なくハートマークをつけられる
見て欲しい気付いて欲しいイケズする
黒板の相傘初な恋終わる
美しいとからかわれたはつい昨日
愛してるなんてからかうのは止めて
からかわれバラ百本を買っている
冗談に踊らされてたお人好し
茶化したのに本気にされて大慌て
からかいを聞き流せるというゆとり
晩婚が玉の輿だとからかわれ
まぼろしの肩書だよとからかわれ
からかいが過ぎて一転本バトル
価値観でからかう人を見極める
からかったらあかんあれはうちの嫁
ジョークならさらり許してあげましょう
猫にじゃれ遊ぶつもりが遊ばれる

水戸 二七
小林 祥司
伊牟田洋史
田中きみ子
鮎子田嘉子
藤井満洲夫
村上 哲子
浜野みさえ
細川 正章
六戸三喜恵
替地三枝子
黒田るみ子
池本 ゆき
山内 悦次
土居 直子
毛利 元子
高瀬 秀子
森 繁生
西井 栄一
貞方 庄二
西谷 公造
中武 弓
植野 繁子

香川 保子
常國 喜好
石谷 恵子
阿部 俊八
佐藤 辰雄
福本 清美
掃部 博隆
廣田ひで子
中村八十八
諸富 幹夫
柴本ばっは
高木みち子
栗原つや子
山田 順啓
みよしすみこ
富永 熙子
田中五十鈴

からかい上手きつと頭の回る人
日本をからかいに来た大ナマズ
干上がってたまるか地球温暖化
予報士をケリラ豪雨があざ笑う
振り向かれからかう指が空を切る
からかいの風には揺れぬ君子蘭
茶化すのは止める私の品おちる
白いカラスマジックショーにまぎれ込む
からかうのは止そうよ本人は必死
よく食べてしっかり喋る妻の口
冗談もこの頃耳が三ついる
鼻高い天狗からかう鬼がいる
怒らせた言葉はかくも難しい
からかうなほくは真面目にやっている
久々のスカート風が無でていく
時間がない時に限って鍵の穴
あっち向いてホイ兄が大きい方を取る

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

豊田 芳香
碓氷 祥昭
橋本 恭治
細川 正章
藏田 康子
富永 熙子

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

魂
大西 將文 選

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

魂
大西 將文 選

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

魂
大西 將文 選

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

魂
大西 將文 選

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

魂
大西 將文 選

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

魂
大西 將文 選

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

魂
大西 將文 選

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

魂
大西 將文 選

魂
大西 將文 選

魂を磨きやさしさ取り戻す
大敗を糧に魂入れ替える
魂まで売った男の目に涙
ノッカーの込めた魂砂を噛む
魂の限りを観せるフラメンコ
魂胆は猫まで声でやってくる

歌詞二番魂入る演歌節

全部捨てても魂だけはあげられぬ

魂が震えるような恋をした

ソプラノの美声魂奪われる

海鳴りへ眠る魂揺さぶられ

磨くほど魂という光る物

農という魂抜くと錆びる鎌

魂は消えぬ更地になってさえ

精魂こめて子へ握る塩むすび

十五の死校歌が彼の鎮魂歌

魂の灰汁が溶け出す酒二合

魂を少し酔わせて吐く本音

魂がぬけていくのか午前二時

蛭一匹魂を案内する

忠魂の碑がそれぞれにある無念

魂の響くあたりでペンを持つ

魂がゴールラインでオフになる

生命線なぞる魂どの辺り

わたくしに三つ子の魂らしきもの

魂がふらりあの世へ散歩する

頭陀袋荒ぶる御魂入れ歩く

父母の魂宿し生きている

魂が震える曼陀羅の宇宙

鎮魂歌チャペルの窓も少し揺れ

富川 章

豊田 佳子

香川 保子

横山 順子

戸田 清孝

桑野まりこ

伊牟田洋史

田中 堂太

青嶋由紀美

穴戸三喜恵

常國 喜好

小林 祥司

みよしすみこ

黒岩 博美

恵利 菊江

羽生 悦郎

佐藤 辰雄

鈴木かつえ

石谷 恵子

山口由利子

西谷 公造

柴田昭三郎

角野たかし

中武 弓

柴本ばっは

蛇行する魂ひとつ絆とす

魂に素手で触った哲学者

魂の彷徨うガザの地に董

燃え上がる魂だるう百日紅

スベアなどない魂と生きている

戦場の空魂のうめき声

魂の行方を探す星月夜

果てるまで愛の魂抱いている

入魂のペンにいのちの花が咲く

宿題 頼る

AIを上手に頼る近未来

貯えはないが子らには頼らない

すぐ頼る癖が抜けない豆の蔓

八百万の神が日本にいる安堵

神頼みあれもこれもと欲がでる

万策が尽きて最後は神頼み

身内より頼り甲斐ある他人様

雑学に長ける男に頼りきる

頼られてこは男の見せ所

地位協定米国依存怒る民

なぜ核の傘に頼るか被爆国

自給せず輸入に頼る世を憂う

パーティに頼るほかなし軍資金

借金が頼りです日本の予算

主税みずほ

村上 哲子

栗原つや子

菱木 誠

茶谷 好太

鮎子田嘉子

黒田るみ子

中谷 栄子

福本 清美

岩田 明子

山口由利子

田中 堂太

石谷 恵子

村上 哲子

神内 澄子

大島美智代

柴本ばっは

山内 悦次

戸田 清孝

穴戸三喜恵

阿部 俊八

久崎 田甫

山田 順啓

中村八十八

補助金に頼る日本の小企業

頼り甲斐ある秘書だった自殺した

わが妻に命預けている食事

頼られる立場逆転する齡

独り身に突っ支い棒の欲しい日々

頼られるそれは愛とは別のこと

ないよりはましかも細い細い杖

頼られて頑張っている背伸びして

困ったら妻がなんとかしてくれる

スマホ頼る御仁に起きた電池切れ

お薬に頼るかたわら酒やめず

頼りたい人も一緒に老いていく

頼られて気分好くしてこけました

ロボットにおんぶにだっこ人不足

頼る神ましがえたのか未だひとり

年金を頼りにカレー食べている

頼りにされて困ってる金庫番

腐っても最後に頼るのは自分

子に頼るつもり無いのに世話になり

孫の手に頼るしかない背の痒み

頼らないふたりはいつも手を繋ぐ

頼るのは霞かかった記憶力

信頼は宝物です大事です

独居老同士が頼る過疎の町

何よりも今じゃ手すり頼りです

田中五十鈴

弘津 明子

貞方 庄二

毛利 元子

栗原つや子

大岩 郁夫

鮎子田嘉子

久保 光範

掃部 博隆

富永 熙子

黒岩 博美

鈴木かつえ

植野 繁子

土居 直子

角野たかし

みよしすみこ

恵利 菊江

碓氷 祥昭

佐藤 后子

北川 周興

稲垣 義舟

南 高志

中島あんこう

西川 東岳

青嶋由紀美

頼りがいのない人だった好きだった 常國 喜好
宿題 ずれる 片岡 加代 選

老いの喧嘩トンチンカンのまま終える
乱視ですずれて見えます加齢です
昨日今日話がずれる思い込み
富永 熙子
あいまいに会話ずれたす目の寒さ
角野たかし
思考回路平行線のままふたり
山口由利子
総裁選所信は民意からずれる
水戸 二七
少しずつ左右にずれて作る席
土居 直子
ずれても最後までかりおはあちゃん
島田千代子
タイミングずらせばまたとないチャンス
碓氷 祥昭
ごめんなさい台風ずれること祈る
楠本 晃朗
少しずつずれた記憶が誤解生む
高橋 孝造
老いの会ピントのずれもなんのその
諸富 幹夫
視点少しズラせば見える別世界
中村八十八
常識がずれていますと無視される
久崎 田甫
季節感ずれた猛暑の北の町
替地三枝子
想い出が微妙にずれる俺と妻
稲垣 義舟
地球儀の色がすすかにずれてきた
浜野みさえ
高速の一瞬ずれてたら怖い
みよしすみこ
おじさんの洒落のセンスにずれがある
久保 光範
ちょよとしたズレが離婚の引き金に
豊田 芳香
ボタン穴ずれたまんまで五十年
大島美智代
休校にならず恨んだ予報円
阿部 俊八

日常の形がずれる温暖化

半音のずれをタクトは許さない
論点がずれても汲んでやる真意
タイミングずれて惨事を免れる
いつからか会話のずれは茶飯事に
もう少しずれると丁度いい男
世間からずれているけど本気でず
感覚がだんだんずれてくる夫婦
採め事をただせばなんだそんなこと
答弁のピントをずらし逃げ延びる
時代感覚すっかりずれている老後
会議室現場を知らぬ机上論
生真面目の仮面がずれる酒の席
幸せの価値観ずれる令和の子
円安ですれた老後の設計図
周りとのズレが私を貝にする
狛犬もたまに呼吸がずれちがう
何かが違う何が違うかわからない
お年はと聞けば生まれた年を言う
一センチまでは許容の範囲です
物差しがずれていましたしあわせ度
皆笑うよく分からんがわらっとく
地震の後境界線がずれている

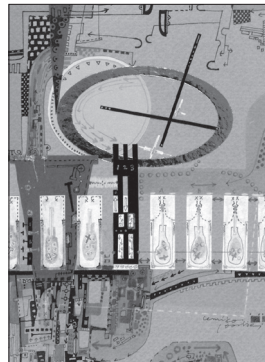
藤井満洲夫

佐藤 辰雄
西澤 司郎
瀬戸 波紋
青嶋由紀美
石谷 恵子
入江 秀雄
香川 保子
楠山東石子
住田 照水
黒田のみ子
西谷 公造
栗原つや子
香川 大
田中五十鈴
鮎子田嘉子
やまぐち珠美
掃部 博隆
西川 東岳
中武 弓
常國 喜好
谷口 東風
松下 英秋

イメージ吟募集

2025年2月号(12月15日必着)

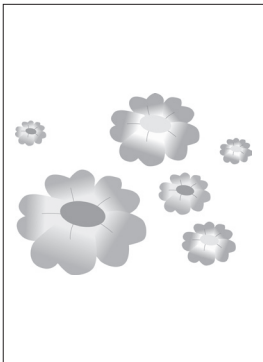
第112回 イメージ吟(2句)



※番傘12月号の投句用紙をご利用ください。

2025年3月号(1月15日必着)

第113回 イメージ吟(2句)



※番傘1月号の投句用紙をご利用ください。